

飯山市教育懇談会（常盤小学校区）発言要旨

平成28年11月30日（月）常盤小ランチルーム

参加者46名

1. 開 会

2. あいさつ

自己紹介

3. 説 明

- (1) 『飯山市教育大綱』について
- (2) 『家庭学習のすすめ』について
- (3) 飯山市児童・生徒の現状と課題について
- (4) 常盤小・城北中学校の現状と課題について
- (5) 学校別児童生徒数推移
- (6) 中学生の進路先について

4. 懇 談

○「子どもは親の言うことは聞かず、親のすることをまねる」とよく言われている。家庭学習の話が出た。子どもが学習するように、親が本を読むことが子どもに良い効果を与える。子どもが勉強をしている時に、親がテレビを見るのではなく、親も本を読むようになればと思う。

○先日の差別のない明るい飯山市を築く市民大会で、中学生がいじめについての作文発表があった。いじめがない事が理想だが、学校ではいじめに対してどんな対応をしているのか。

（学校）いじめの定義が昔と変わってきました。今は受けた子どもがいじめだと認識したらいじめになると捉えています。常に職員がアンテナを高くしながら子どもの様子を見るようにしています。いじめの情報があればスピーディに対応します。QUという自分の学級での居場所等を調べる調査を年2回実施しながら、一人一人の子どもについて、職員が連絡を取りながら対応しています。低学年では、自分の思いを上手に相手に伝えられないので、ちょっと手が出てしまったり、口調が強くなったり、友達との折り合いがなかなかつけられないとかいろいろな問題がありますが、こういうことを通して色々学んでいきます。職員も同じ立場で対応し、子どもと一緒に考え、職員も成長し子供も

成長していくという方向でやっています。今年度は大きな事案はありませんが、小さなことでもすぐ対応するようにしています。

(学校) 中学校でも小学校同様いじめに関するアンケートや、保健室・校長室・職員室は悩み相談室であるということを、全校生徒にPRしています。校長・教頭の携帯電話番号を学校のお便りに掲載し、いつでも相談を受ける体制をとっています。実際にいじめや、いじめに発展しそうな事案は、生徒本人からは相談しにくいと考えられます。中学校では、クラスの中でいじめられているのか阻害されているかなどの子どもがいたら、その周りで見れていた子ども達が、担任や保健室の先生に相談し、全職員で情報を共有し、個々に指導したり、いじめであると判断した場合には保護者に連絡をしたり、被害者への謝罪をすところまで指導していきたいと思っています。

○学力向上のために家庭学習を充実するなど、いろんなことが数値化され、平均より上なら良いとかというイメージがある。勉強以外でも自信をつければいじめがなくなり、一定の基準の上下の格差でも対応していけると思う。あまり数値にこだわるのはどうか。これがいじめにもつながるのではないかな。それぞれの個性がそれぞれ豊かに発揮できるような方向性を教育の中でどうやっていくのか。

(教育委員会) 最低限この位の情報を市民の皆さんに知っていただくことが市の行政の義務だと考えています。私が教育で一番大事にしていることは、一人一人の子どもが、まず、自分の居場所があるということ。学校の中、教室の中、クラブの中、地域の中などに居場所があることが大前提です。こういう経験をしていくことが将来いろんな職場の中で自分の立ち位置をしっかりと確認して、自分なりの生き方をしっかりとできるようにしてあげたいという願いが大前提にあります。これを踏まえた上での最低限の情報公開であることが今回のねらいでありますので、例えば学校別の平均点の公表などは全く行う気はありません。先生方の頑張りの中で飯山の子ども達がどの状況にあるのか最低限知っていただきたい情報です。もう一つは飯山で生まれ育ったことが、市外へ行ったときに、「飯山で育った」ということに誇りを持ち言えるようにしたい。これがふるさと教育の大きなねらいでもあります。一番は一人一人の子どもが将来どんな仕事についても自分の仕事にプライドを持ちやっけていけるよう小中学校と飯山高校にも思いを繋げていきたいと考えています。

○先生方の人事異動の権限はどうなっているのかわかりませんが、今の常盤小の校長先生、教頭先生には非常によくやっけていただいている。先生方がはつらつと明るくしている姿が子ども達にも伝わりよくなっていると思う。そこでお願いですが、校長先生・教頭先生を1年でも長く常盤小学校で頑張っけていただけるように、また、転任なさる時に

は後任の先生の選出には、今の校長・教頭先生のような先生を是非常盤に選んでいただくようお願いします。

(学校) 大変ありがたいお言葉をいただき恐縮しています。本当に常盤地域の皆様は心温かく、そして、子ども達がやりたい事、先生方がやりたいことに対して応えてくださります。こんなことをやりたいと言うとすぐ協力して下さります。今年新たに、クラブの講師として何人かにすぐ協力いただくことができました。本当にありがたい事です。ここにいらっしゃる方にも料理クラブで大変お世話になっています。是非、クラブで子ども達とか関わった感想などお聞かせいただければと思います。

○給食の食材を収めている、常盤給食会の代表も務めている関係からか、郷土料理の指導をしてほしいと言われました。食文化の会にも関わっていきまして、郷土料理のレシピ作りにも関わりました。多少飯山の伝統食の知識があったのでその範囲内でお子さんの作ってみたいものを挙げていただき、笹ずし・おやき・けんちん汁・常盤ごぼうを使った料理などを作りました。わたしは、料理の先生でも学校の先生でもないので、指導の仕方はよくわからないが、私が普段こんな風にやるんだよと、子ども達と一緒に料理を作りました。最後には皆さんから感想を書いたものを記念にいただきました。この程度ですが、子ども達に料理を作る楽しさあるいは、常盤の食材や飯山で取れる食材を改めて認識していただき、意外とお年寄りと同居する家庭が多いのか、けんちん汁は食べているようだということを知ることができました。三世代の同居が多い事は良いことだと改めて感じました。

○大綱にあるICTの活用について実際にどのような事をおこなっているのか。

また、タブレットを使った内容はどのような事を行っているのか。

(教育委員会) 木島小をモデルにタブレット・モニター・拡大投影機を使用し、子ども達にとって魅力のある授業をもっとやっ行って行こうと取り組みを始めたところです。今後小学校6校、中学校2校は木島小の研究の様子を見たりし考えていきます。先生方の意見を参考にしながら来年・再来年と順次整備を進めていきたいと計画であります。

タブレットの動画機能・写真機能を使い理科の実験撮影や、体育の跳び箱やマット運動を撮影し、動画を見ながら、こういうところを直した方が良いとか確認したり、インターネットで歴史上の人物を調べて社会科の授業に活用したりしています。

○タブレットを持っている家庭も多いと思うが、子ども達にとって家でのタブレットはゲーム機器となっている。大人はパソコンの機能があり調べものに活用できたり、データを入れ閲覧したり仕事に使っているように使ってほしい。

○小学校の適正規模および小中一貫校の研究とは今どんなことを研究されているのか。

(教育委員会) 文部科学省では1学年2クラス、全校で12クラス以上の学校を適正規模と位置付けています。市内小学校では飯山小学校しか文科省が言うところの適正規模校になりません。ただ、今の飯山市の現状をみたとし規模的には1クラス20人前後で学習やいろんな活動をするに先生方の目・手・指導がかけやすくて非常に良い感じで各学校が教育効果を上げていていると感じています。少なくとも複式学級になったら、飯山では適正規模ではないと考えています。それから小中一貫校は、飯山では小学校・中学校・飯山高校で算数数学では既に連携を組んで取り組んでいます。また英語でも小中高の連携に取り組み始めました。実質的な小中の一貫をしっかりと進めることが一番堅実ではないかと考えています。ただ将来的に飯山の子ども達がこれ以上減少した場合は今後の大きな課題になると思います。来年度あたりに研究する組織を立ち上げ研究をし、これから来る時代に備えていかなければならないと考えています。

○探究心と創造の育成に関してですが、探求する気持ちになるということは、何かに興味を持ち調べるという行動で探究がでる。何か題材を授業の中で取り上げ与えることで探究心が生まれると思う。ただ漠然と本を借りろと言うのではなく、何かお題として投げかけると探究心が生まれると思うので、そのような投げかけをお願いしたい。

(教育委員会) おっしゃるとおり、子ども達が興味あるものを自分の足・頭・手・目・耳を使い調べる、これが探究心・探究力を育てていくことになる一番のきっかけだと思います。例えば常盤ごぼう、戦争、水害等地域や子ども達が関心のある題材を調べるために読書をする、あるいはICTを活用する、こういうことをしながら子どもたち一人一人の探究心を育てていくことがこれからの子ども達に大事になると思います。大変素晴らしいご意見ありがとうございました。